

編集後記

数年前には多くの人が考えなかったロシアの「ウクライナ侵攻」により、原油価格高騰やロシアからの石油・石炭・ガス供給遮断など、エネルギー安定供給へのリスクが顕在化した。また、ロシアへの依存度が高い鉱物資源が経済に与える影響も露呈した。これらの変化は一時的との見方も多い一方で、世界的に特定の国・地域に頼らないエネルギー源および鉱物資源確保へ向けた動きも急である。

最初の記事では、水素を供給する側から湾岸エリアや地域といった具体的な利用先を含めて、合理性を持ちつつ全方位的な取り組みが紹介された。2番目の記事では、電力会社の電力供給実績を踏まえた水素調達先から国内供給、需要側までの幅広い分野での検討例を示した。3番目の記事では、2050年以降のカーボンニュートラル達成時の水素利用の時系列、分野ごとの詳細な評価結果を示した。評価結果は、前提条件等によって異なり注意が必要であるが日本では水素が重要な役割を果たすものの、その一定量は輸入に頼るなど示唆が多い。「第6次エネルギー基本計画」に記載された「あらゆる可能性を排除せず、使える技術は全て使

うとの発想」での取り組みがカーボンニュートラル実現に重要な水素分野でも読み取れて興味深い。

4番目の記事は一転して、1000年、さらには100万年間の減衰や影響をも評価する原子力における高レベル廃棄物処分についてである。原子力も世界的には一部の国を除いてカーボンニュートラル実現に向けて重要視されており、世界的には革新炉や小型炉、さらには核融合開発も活性化している。

カーボンニュートラル実現には今後10年から30年が勝負という意見が多い。一方で、原子力分野では、数十年先を超え、1000年、100万年先までの評価もある。「あらゆる可能性を排除せず、使える技術は全て使うとの発想」で、1000年、100万年先のことまで評価している原子力が、「使える技術」の1つとして、今後の地球環境維持と人類の豊かで持続可能な発展に貢献できるよう、当研究所も様々な取り組みを進めている。

当研究所の活動や本号の記事が皆様の今後の事業活動に少しでもご参考となれば幸いである。

編集責任者 茶木雅夫

季報 エネルギー総合工学 第45巻第1号

令和4年4月20日発行

編集発行

一般財団法人 エネルギー総合工学研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2

新橋SYビル(6F)

電話 (03) 3508-8891

FAX (03) 3501-1735

<https://www.iae.or.jp/>

(印刷) 株式会社 吉田コンピュータサービス

※ 無断転載を禁じます。